

令和4年10月28日

太田市議会議長 岩崎 喜久雄 様

太田クラブ 代表 白石 さと子

太田クラブ会派行政視察報告書

- 1 期日 令和4年9月26日（月）から 9月28日（水）までの3日間
- 2 視察地 愛媛県今治市、香川県坂出市、愛知県安城市
- 3 視察事項 (1) 愛媛県今治市議会
「村上水軍博物館の運営と観光振興の取り組み」について
(2) 香川県坂出市議会
「地域公共交通政策」について
(3) 愛知県安城市
「つかう.meet（三河安城駅周辺の民間活動者と、対話とつながりの
協同活動について）」の取り組みについて
- 4 参加議員 12名
白石 さと子、木村 康夫、町田 正行、正田 恭子、山田 隆史、岩崎 喜久雄
斎藤 光男、大川 敬道、渡辺 謙一郎、中村 和正、木村 浩明、神谷 大輔
- 5 視察概要

- (1) 愛媛県今治市議会 「村上水軍博物館の運営と観光振興の取り組み」について

目的

瀬戸内しまなみ街道の起点（終点）や瀬戸内海の重要な海路を有する今治市は、観光振興において本市の何歩も先を行く先進地区であります。瀬戸内しまなみ街道を走るサイクリングロードを始め、村上水軍など地元観光資源を上手に地元振興に生かしています。今回は、村上水軍博物館を中心に今治市の観光施策の反響や効果を学びます。

また、本市と友好都市である今治市に、市議会議長の在籍する会派として表敬訪問をいたします。

所感

瀬戸内しまなみ街道の途中に位置する大島に村上水軍博物館があります。自動車のみならず、サイクリングロードを利用する人も来館される様です。サイクリングに訪れる人は、日本のみならず世界中から来るのが珍しく無いとお聞きしワールドワイドな集客を誇っています。コロナ禍前の令和元年には、年間270万人を超える観光客が訪れ、32,766人の外国人が市内に宿泊しています。年間のレンタサイクル利用者、23,547人の内訳では、外国人が大半を占めています。さて博物館は何の知識を持たなくても、一通り見学すれば村上海賊（水軍）のことがよくわかるような気の利いた作りになっています。村上水軍がいかに歴史上重要な役割を果たしたかが展示してあります。博物館のみならず、今治市のあちらこちらに、観光の冊子や資料が無料で配布されており、その種類やできばえに驚かされます。コロナ禍で観光客数は大きく減りましたが、その分析や対策を常に行っておりました。本市としても見習うべき対応だと思いました。

造船業の盛んな今治ですが、海運が世界的に見直されており、新規の受注が多く、実際に巨大な船が4隻ほどドックで建造されていました。今治市の今後の発展を祈ります。





(2) 香川県坂出市議会 「地域公共交通政策」について

目的

自動車での移動が中心の本市において、地域公共交通を今後どのようにして行くかは大きな課題です。交通弱者をいかに救って行くか、はっきりした解決方法はまだありません。坂出市は、地域公共交通政策の先進地であり、具体的に課題にどう対応したかなど、多くを学び本市の交通政策に生かすことが目的です。

所感

坂出市は、多くの人が利用するJR坂出駅を中心に、公共交通網が出来ており、本市とは異なります。路線バスが発達しており、隣接する他市や瀬戸大橋まで路線はつながっています。しかし、路線バスではカバーしきれない、別の言い方をすると、路線バスが適さない人口密度の低いいくつかの地域にデマンド方式のバスを走らせています。デマンドバスもその終点はJR坂出駅になっています。バス停には、予約があった所だけ寄って行くいわゆるデマンド方式です。発車時刻は一時間ほどの間隔で、予約がいっぱいになれば、一本前か後ろのバスを勧めます。今のところこれでなんとか対応でき、乗れないことはほぼ無いそうです。乗車に当たって資格は無く、どなたでも乗れるそうです。なぜ乗車資格を決めないのですかと質問すると、自家用車を持っている人は利用しない、利用するのは移動に困っている人だけだからこれで良いとの回答でした。公共交通に対する市民からの要望もまとめられており、その一つ一つが本市にも当てはまる事でもありまし

た。その対応、見解は大いに参考になりました。本市の公共交通にとって具体的に勉強出来る良い機会になり、有意義な視察ができたと思います。



(3) 愛知県安城市 「つかう.meet（三河安城駅周辺の民間活動者と、対話とつながりの協同活動について）」の取り組みについて

目的

駅周辺の活性化は本市にとっても切実な問題です。「つかう. meet」というキャッチのイメージ通り安城市の駅周辺活性化プロジェクトは、新しいアイデアや切り口が期待出来ます。閉塞感を打開する為にも、成功したプロジェクトから学びます。

所感

安城市は、人口が19万人ほどで、自動車工業が盛んでありながら、明治用水を利用した農業も古くから盛んで、本市と産業構造が似ています。しかしながら、新幹線の三河安城駅や、JR安城駅があり、名古屋市と至近の距離に位置することは大きな違いです。「つかう.meet」という三河安城駅周辺活性化プロジェクトですが、まず現状の分析方法からして目を見張るものでした、一言でいうなら、大手広告代理店や先進的取り組みを取り入れた大学などの、研究室が専門家に向けたマーケティングをプロフェッショナルに展開したというものです。安城の魅力を分析してポスター化するなどわかりやすいかわかりづらいか、一見では判断出来ません。計画の立て方も、「まず意識しよう→何をしたい→何が出来る→どうみられたい」「ひらく→仕分ける→まとめる→うごきを起こす」4つ

のステップと4つのルールでみんなのイイネをつなげよう と言うものですが、意識の高い多くの市民から意見を出してもらい計画にも参加・協力してもらい取り組みは見習うべきところがあります。 閉塞した現状を打破する為には、市民自らの意識が重要です。

区画整理など難しい課題を伴う駅周辺開発も地元からの声を力にしなければ先に進みません。安城市の取り組みは、結果的に若い人も含め多くの市民を巻き込んだと言う意味では、それ一つを見ても、成功事例では無いかと思いました。

